

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-190104

(43) 公開日 平成6年(1994)7月12日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 3 F 3/00	5 1 1 H	8003-2C		
	5 1 3 L	8003-2C		

審査請求 未請求 請求項の数9(全 9 頁)

(21) 出願番号 特願平4-111010

(22) 出願日 平成4年(1992)4月30日

(31) 優先権主張番号 特願平3-100964

(32) 優先日 平3(1991)5月2日

(33) 優先権主張国 日本 (J P)

(71) 出願人 591091478

家村 修

神奈川県横浜市泉区中田町3361-43

(72) 発明者 家村 修

神奈川県横浜市泉区中田町3361-43

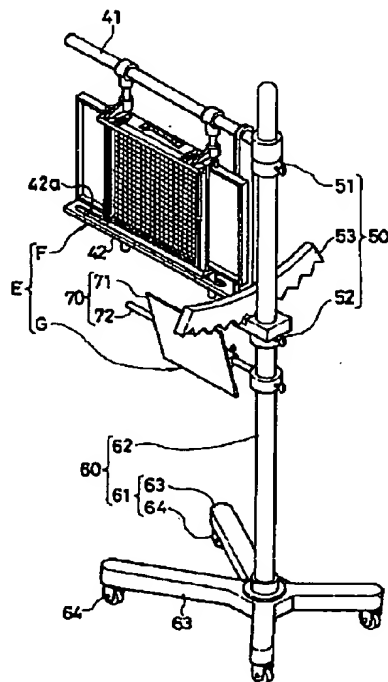
(74) 代理人 弁理士 三好 保男 (外1名)

(54) 【発明の名称】 遊戯具

(57) 【要約】

【目的】 ベッド等に寝た状態で、囲碁や将棋を独習、あるいは対戦でき、また、これを中断したとき、配石（配駒）をそのままの状態確実に一時保存することができる。

【構成】 遊戯片（1）と遊戯盤（2）とからなる遊戯具本体（F）と、この遊戯具本体（F）を着脱自在に取付けるスタンド（G）から構成されており、前記遊戯具本体（F）は、前記遊戯盤（2）上に遊戯片（1）を着脱可能に一時固定する磁気手段を備え、前記スタンド（G）は、遊戯具本体（F）を着脱可能に保持する保持手段（40）と、この保持された遊戯具本体（F）の位置及び／又は角度を変更可能にする変更手段（50）を備えたことを特徴とする遊戯具（E）。



1

2

【特許請求の範囲】

【請求項1】 遊戯片と遊戯盤とからなる遊戯具本体と、この遊戯具本体を着脱自在に取付けるスタンドから構成されており、前記遊戯具本体は、前記遊戯盤上に遊戯片を着脱可能に一時固定する磁気手段を備え、前記スタンドは、遊戯具本体を着脱可能に保持する保持手段と、この保持された遊戯具本体の位置及び／又は角度を変更可能にする変更手段を備えたことを特徴とする遊戯具。

【請求項2】 遊戯具本体は、更に遊戯盤上に遊戯片を任意に並べた遊戯片を、そのままの状態で一時的に保存する保存手段を備えたことを特徴とする請求項1記載の遊戯具。

【請求項3】 磁気手段は、遊戯片を常磁性体とし、遊戯盤を磁性体として構成したことを特徴とする請求項1記載の遊戯具。

【請求項4】 磁気手段は、遊戯盤を常磁性体とし、遊戯片を磁性体として構成したことを特徴とする請求項1記載の遊戯具。

【請求項5】 保存手段は、板状に形成した可撓性部材からなり対戦状態にある各遊戯片を、対戦状態のまま覆うよう構成したことを特徴とする請求項2記載の遊戯具。

【請求項6】 保存手段は、板状に形成した可撓性部材の表面に遊戯片の形状に対応した形状の凹部を設け、この凹部で対戦状態にある各遊戯片を保持するよう構成したことを特徴とする請求項2記載の遊戯具。

【請求項7】 保存手段は、板体の表面に遊戯片の形状に対応した形状の凹部を設け、この凹部で対戦状態にある各遊戯片を保持するよう構成したことを特徴とする請求項2記載の遊戯具。

【請求項8】 保存手段は、弾性部材からなり対戦状態にある各遊戯片を、対戦状態のまま覆うよう構成したことを特徴とする請求項2記載の遊戯具。

【請求項9】 保存手段は、表面に良好な剥離性を有する膜を装着したことを特徴とする請求項2記載の遊戯具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は遊戯具に関し、特にベッド等に寝たまま、上向き、横向き等、任意の姿勢で囲碁、将棋等のゲームを独習あるいは対戦することができる遊戯具に関する。

【0002】

【従来の技術】 療養中の患者や寝たきりの老人がベッドに寝た状態で囲碁や将棋の本を読み、独習することは、自由時間の多い彼等にとって、暇つぶしと棋力向上を兼ねて有意義なことである。

【0003】 従来から、ベッドに寝た状態で本を読むことができるブックスタンドは知られている。しかし、囲

碁や将棋の独習は、通常、目で読んだだけでは理解がしにくく、実際に、盤上へ石あるいは駒を並べながら読むのが理想的である。

【0004】 一方、磁石碁盤と称し、鉄製の碁盤と磁石の碁石を組合せて、碁盤が傾斜したり、多少振動しても、石の位置がずれない囲碁セットも知られている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、従来のベッド用ブックスタンドは、単に本を保持するためのものであるため、たとえば囲碁や将棋の本を把持して寝ながら読むことはできるが、同時に詰碁や詰将棋を盤上に並べて独習することはできない。

【0006】 そこで従来から知られている磁石碁盤を、従来のベッド用ブックスタンドで保持することが考えられるが、ベッド用ブックスタンドは本を把持するように作られているため、実際にやってみると、碁盤を確実に保持することは困難であり、また、従来の磁石碁盤は碁石を入れる容器が別になっており、結局、ベッドの上に碁石を置かなければならなくなる。また、上述したように、独習の場合は、本と碁盤を同時に見ながら行なうものであり、従来のブックスタンドでは2脚必要になる。

【0007】 一方、囲碁の独習の一つに、専門棋士の打ち碁を、棋譜を見ながら並べるという方法がある。これは、専門棋士の対局を再現し、場合によっては解説を加えて、棋力の向上を図ろうとするものであるが、通常、終局までに200～300手を要する。

【0008】 ところが、このように多数の石を並べて独習している途中で、診察の時刻、あるいは夜の消灯の時刻になって、中断しなければならなくなることはよくあることである。このようなとき、打った石を片づけてしまふと、また次の機会には、最初から並べなおさなければならず、大変時間がかかり、無駄なことである。しかし、だからといって、碁盤を広げたまま、他のものに触れることなく、保管しておく場所は、実際にはないことが多い。

【0009】 このような事態は、独習でなく、実際に対局した場合には、もっと深刻である。ベッドの上で、二人が並び、碁を楽しむことはよくあることであるが、やはり、対局途中に、診察等の理由で対局を中断せざるをえない場合がある。このようなとき、対局中の配石を崩し、次の機会に、以前打った石を完全に再現し、戦を再開できるのは専門棋士か、余程の高段者同士であり、通常の愛好家は不可能である。したがって、中断を余儀なくされたときには、そのまま、碁盤を移動させて、物が触らないような所に置くしかないが、病室等ではそのような場所の余裕がなく、結局、崩して、打直しをせざるをえなかった。

【0010】 そこで、本発明の目的は、ベッド等に寝た状態で、囲碁や将棋を独習、あるいは対戦でき、また、これを中断したとき、配石（配駒）をそのままの状態

3

確実かつ容易に一時保存することも可能にした遊戯具を提供することにある。

【0011】

【課題を解決するための手段】前記目的を達成する本発明の遊戯具は、遊戯片と遊戯盤とからなる遊戯具本体と、この遊戯具本体を着脱自在に取り付けるスタンドから構成されており、前記遊戯具本体は、前記遊戯盤上に遊戯片を着脱可能に一時固定する磁気手段を備え、前記スタンドは、遊戯具本体を着脱可能に保持する保持手段と、この保持された遊戯具本体の位置及び／又は角度を

【0012】

【作用】本発明の遊戯具は、ベッド等に寝た状態で、楽な姿勢で囲碁や将棋の本を読むと同時に石や駒を並べ、独習することができ、また、二人で対局することもできる。

【0013】

【実施例】以下添付図面を用いて本発明の実施例を詳細に説明する。

【0014】図1は本発明に係る遊戯具を示す斜視説明図、図2はスタンドの要部を示す斜視説明図、図3はスタンドに遊戯具本体を取り付けた状態の要部を示す断面側面図、図4は本発明に係る遊戯具の使用例を示す斜視説明図、図5は本発明に係る遊戯具の他の実施例を示す斜視説明図、図6は遊戯具本体の一例を示す分解斜視説明図、図7は蓋体の一部断面説明図、図8は遊戯具本体の他の例を示す分解斜視説明図、図9は図8に示す遊戯具本体の碁石収納室の拡大分解斜視説明図、図10は図9に示す遊戯具本体の携帯時を示す斜視説明図、図11は図10に示す遊戯具本体における碁石収納室のセット状態を示す斜視説明図である。

【0015】本実施例においては、本発明に係る遊戯具を囲碁用セットに具現した例について説明する。

【0016】図示した遊戯具Eは遊戯片1（本実施例においては碁石1）と遊戯盤2（本実施例においては碁盤2）とからなる遊戯具本体Fと、この遊戯具本体Fを着脱自在に取り付けるスタンドGから構成されており、前記遊戯具本体Fは、前記碁盤2上に碁石1を任意に並べた対戦状態を、そのままの状態で一時的に保存する手段30を備え、前記スタンドGは、遊戯具本体Fを着脱可能に保持する保存手段40と、この保持された遊戯具本体Fの位置及び／又は角度を変更できるようにした変更手段50から構成されている。

【0017】さらにこの構造を詳細に説明する。まず遊戯具本体Fの構造を説明すると、遊戯具本体Fは本実施例において、図6～図11に示すように、常磁性体の碁石1及び磁性体の碁盤2を収納する筐体10と、この筐体10の開口側に着脱可能に取り付けられた蓋体20と、この蓋体20の裏面に設けられている前記碁石1の

4

保存手段30とから構成されている。

【0018】そして、第1実施例において上記筐体10は、図6及び図7に示すように、平面視矩形状に形成され、その側面には白及び黒の碁石1をそれぞれ収納する碁石収納室11及び12が設けられており、他側に形成された残余のスペースには格子状に枠組みされた補強兼用支持部材13が嵌め込まれ、この補強兼用支持部材13の上面に上記碁盤2が着脱可能に載置されている。さらに、この筐体10の長辺側の両外側には、間隔をおいて蓋体20のクランプ受け金具14が筐体10の開口側に向かって取り付けられている。

【0019】また、本実施例において上記碁石収納室11及び12の隅角部には、対戦中に取得した揚げ石を収容しておく揚げ石収納部11a及び12aが設けられている。なお、この碁石収納室11及び12は本実施例のように着脱可能な箱状体によって構成してもよく、筐体10に固定式あるいは引き出し式でもよいのは勿論である。また、各碁石1の裏面には永久磁石が取り付けられており、碁盤2は永久磁石を吸着する鉄材によって加工されている。

【0020】蓋体20は本実施例において板状に形成され、裏面の上記碁石収納室11及び12に対応する位置に、この碁石収納室11及び12用の蓋部21及び22が設けられており、上記碁盤2に対応する位置には、この碁盤2の上面を全面的に覆うように前述した碁石1の保存手段30が設けられている。さらに、この蓋体20の長辺側の両外側には、前記筐体10側の各クランプ受け金具14に対応せしめて、それぞれクランプ金具24が取り付けられている。

【0021】上記碁石1の保存手段30は本実施例において、板状に形成した可撓性部材の表面の、碁盤2の各目2aに該当する位置に碁石1の半面形状に対応した形状の凹部31を設けて構成されており、この保存手段30を備えた蓋体20で、対戦状態にある碁石が置かれた碁盤2を覆うと共に、筐体10のクランプ受け金具14に蓋体20のクランプ金具24に係合してクランプすることにより、上記凹部31で対戦状態にある各碁石1を、その位置で確実に保持することができる。つまり、対戦状態を固定化することができ、このままの状態から自由に持ち運んでも対戦中断時の囲碁模様を正確に保持することができる。そして対戦を再開する時は、クランプ金具24の係合をはずし蓋体20を開けるだけで、即時、中断した時の状態から対戦を再開することができる。

【0022】なお、上記可撓性部材の表面に良好な剥離性を有する膜32〔図7（b）参照〕を装着しておけば、碁石2が可撓性部材の凹部31に付着するのを阻止することができ、蓋体20を開けた時、対戦状態にある各碁石1の模様を壊す恐れがない。

【0023】また、本実施例においては上述したように、板状に形成した可撓性部材の表面の、碁盤2の各目

5

2aに該当する位置に、予め基石1の半面形状に対応した形状の凹部31を設けたが、凹部31は必ずしも設ける必要はない。これは、可撓性部材として適当な材料を選定すれば、保持手段30を備えた蓋体20で対戦状態にある基石が置かれた碁盤2を覆い、これを筐体10にクランプした時、その圧力で可撓性部材が凹こみ、予め凹部31を設けたときと同等の効果を得ることができるからである。

【0024】さらに、本実施例においては板状に形成した可撓性部材を用いたが、これは合成樹脂や軽合金を用い凹部31を一体形成しても良いのは勿論である。

【0025】また、可撓性部材ではなく、適度な弾力性を有するゴムや発泡体等弾性部材を用いても良い。

【0026】図6に示す実施例において、25及び26は蓋体20の裏面に設けられている位置決め突起である。一方の位置決め突起25は図示したように、蓋体20の裏面に形成されている基石収納室11用の蓋部21と基石収納室12用の蓋部22との間に、これら蓋部21と蓋部22とを区分するように形成されており、他方の位置決め突起26は、上述した位置決め突起25の延長線上の蓋体裏面に設けられている。そして、この蓋体20を筐体10に取り付ける場合には、上記一方の位置決め突起25を、筐体10の基石収納室11と基石収納室12用との間に形成されている一方の位置決め凹部15に嵌合すると共に、他方の位置決め突起26を、筐体10の他側縁に形成されている他方の位置決め凹部16に嵌合することにより、容易且つ確実に位置決めすることができる。

【0027】また、図中18は切欠部で、上記筐体10の一方の位置決め凹部15の碁盤2側に設けられており、この切欠部18を介して碁盤2の側縁に爪を引っ掛けて碁盤2を引き起こすことにより、極めて容易に碁盤2を筐体10から取り外すことができるようにしてある。なお図中19は把手であって、本実施例においては図6に示すように筐体10の側壁中央部に取り付けられている。

【0028】つづいて、図8～図11において、遊戯具本体Fの他の実施例について説明する。

【0029】図示したこの遊戯具本体Faも基本的なアイデアは前述した遊戯具本体Fと同じであるが、この実施例の場合、図示したように可能な限り薄く形成して、運搬性の向上を図ると共に、軽量化してある。

【0030】またこの実施例の場合、図9に示したように、基石1を収納しておく収納室11を、筐体10の左右に相対向して一対計2個設ける一方、この左右一対の各収納室11R及び11Lの幅寸法と奥行き寸法を可能な限り大きくし、さらに、この各収納室11R及び11Lの底面に基石1を吸着する吸着手段11Zを施して、基石1をそれぞれ一重に並べて吸着収納できるようにし、使用性を向上してある。

6

【0031】そして、この収納室11L及び11Rは、図9に示したように構成されている。すなわち、図示左側の本体11LWの上縁にスライドガイド11gを取り付ける一方、図示右側の下縁にスライドガイド11fを取り付け、対戦に際し、この収納室を奥行き一杯まで引き出しても収納室が筐体10から脱落しないようにしてある。また、本体11LW及び11RWの奥壁外側の中央部には、雄型係止具11mおよび雌型係止具11nが取り付けられており、収納室11L及び11Rを互いに筐体10内に収納した際、雄型係止具11mと雌型係止具11nとが嵌合して、収納室11L及び11Rが筐体10からみだりに離脱しないようにしてある。

【0032】さらに、本実施例においては上述したように、箱状に形成された本体11LW及び11RWの幅寸法と奥行き寸法を可能な限り大きくする一方、この各収納室11R及び11Lの底面に基石1を吸着する吸着手段11zを施して、基石1をそれぞれ一重に並べて吸着収納できるようにし、使用性を大幅に向上してある。

【0033】なお、上記吸着手段11zは、本実施例の場合、磁石を装着した基石を使用しているのので、各収納室11R及び11Lの底面には全面に薄い鉄板を張り付けることにより構成されている。しかしながら、鉄板を装着した基石を用いた場合には、各収納室11R及び11Lの底面には磁性薄板を張り付ければ良い。

【0034】また、図9中11Yは上述した各収納室11R及び11Lに着脱可能に設けられた蓋体である。

【0035】次に遊戯具本体F（本実施例においては上述した遊戯具本体Fa）を着脱自在に取り付けるスタンドGの構造について説明する。

【0036】スタンドGは図1～図5に示すように、取付けボール60と、この取付けボール60に着脱可能に取り付けられ前記遊戯具本体F（Fa）を着脱可能に保持する保持手段40と、この保持された遊戯具本体Fの位置及び／又は角度を変更できるようにした変更手段50から構成されている。

【0037】さらにこの構造を説明すると、上記取付けボール60は、平面視略十字状に形成された基台61と、この基台61に立脚されたボール62とから構成されている。そして上記基台61を構成する各アーム63の外端側底面にはキャスター64が取り付けられており、この取付けボール60を容易に移動できるようになっている。なお本実施例において基台61を構成するアーム63は、図1に示すように遊戯具本体F（Fa）を取り付ける側のアーム長さを、取り付けない側と比較して長く形成してあり、スタンドGが遊戯具本体F（Fa）の重量等によって転倒しないように構成されている。

【0038】遊戯具本体F（Fa）を着脱可能に保持する保持手段40は、図2及び図3に示すように、上記ボール62に上下位置調節可能に取り付けたアーム41

7

と、このアーム41に上方を回転自在に懸垂した正面視略L字状の保持アーム42と、前記アーム41に回転自在に懸垂すると共に下方を前記保持アーム42のガイド溝42a内に嵌挿した保持枠体43から構成されている。そして、この保持枠体43はアーム41に懸垂して下方をガイド溝42aに嵌挿する2本の枠ポール44、2本の枠ポール44に橋架して上下動自在に取付けられた押さえバー45および押さえバー45の下方に同じく枠ポール44に橋架された受台46から構成されている。また、また、押さえバー45の上面にはクランプ受け金具45aが設けられ、受台46の上面には切込み46aが形成されている。

【0039】遊戯具本体F(Fa)は図1および図3に示すように、受台46の上に、その突起を受台46の切込み46aに嵌合して置き、押さえバー45を下方に降下させて遊戯具本体F(Fa)を挟持すると同時にクランプ金具24をクランプ受け金具45aに係止することにより完全に固定する。

【0040】このように、遊戯具本体F(Fa)を保持枠体43に固定することにより、遊戯具本体F(Fa)はアーム41に沿って水平移動自在に固定されたことになり、またアーム41はボール62を軸に回転自在であるため、ボール62を軸にして、回転自在にもなっている。

【0041】次に、遊戯具本体F(Fa)の位置及び／又は角度を変更する変更手段50について説明する。

【0042】変更手段50はボール62に挿通され、上下の位置を固定する環状ストッパー51、歯合ストッパー52、L字状の保持アーム42の角部に固定されたラッチ53から構成されている。

【0043】環状ストッパー51はアーム41を支える環状部41aの下部に位置し、ねじ込みつまみ51aをねじ込むことにより、位置を固定し、保持手段40の降下を阻止する。

【0044】歯合ストッパー52は環状ストッパー51と同形のものの上に、ラッチ53の歯部53aと歯合する歯部52aを有する頭部52bを備えたもので、ねじ込みつまみ52cをねじ込むことにより、上下動を固定することができる。

【0045】ラッチ53はアーム41を中心にした円弧を形成し、歯部53aを下に向け保持アーム42の垂直部下端に固定されている。

【0046】変更手段50による上下位置の変更は、環状ストッパー51及び歯合ストッパー52を上下に摺動させ、ねじ込みつまみ51a、52cをねじ込むことにより行なう。また、角度の変更は、アーム41を上方に持ち上げることにより、環状部41aがボール62と摺動して保持手段40とラッチ53全体が上昇するので、その状態でアーム41とを軸に回転させる。すると、保持アーム42の垂直部とアーム41が摺動し、アーム4

8

1を軸に回転するので、適宜の角度のところで降下させ、ラッチの歯部53aを歯合ストッパーの歯部52aを噛み合わせることににより、行なう。

【0047】更に、本実施例のボール62には書架70が設けられている。書架70は書架板71及び書架アーム72から構成され、書架アーム72はボール62を軸に回転、上下動自在に延び、書架板71は書架アーム72を軸に回転自在に設けられている。この書架板71に、たとえば囲碁の本をクリップ等で固定することにより、任意の位置と角度にセットすることができる。

【0048】図5は本発明の他の実施例を示すものであり、遊戯具本体Fの角度変更手段が前記実施例と異なっている。

【0049】即ち、本実施例では、遊戯具本体Fの角度変更手段は、アーム41に直交して用いられる角度調整桁54、この角度調整桁54の最後端部と保持アーム42の底部を張架するひも55、アーム41の環状部41aの上方とアーム41の他端に設けられた支板41bの間に橋架した補強バー47及びこの補強バー47と上記環状部41aに囲まれた三角形の一部を形成する板状部48から構成される。

【0050】板状部48の下辺には角度調整桁54が挿嵌できる切欠きが設けられている。したがって、この実施例においては、角度調整桁54を前後に摺動させることにより、遊戯具本体Fの角度を任意に変更することができる。

【0051】図11は、本発明の遊戯具本体における碁石収納室のセット状態を示しており、碁石収納室11が、筐体10から抜けでないように、不使用時には図11(a)に示すように、コ字型ピン10aを、碁石収納室11を押し込んだ状態でピン穴10bと10cに挿入することにより、固定し、使用時には図11(b)に示すように、コ字型ピン10aを、碁石収納室11を引き出した状態でピン穴10dに挿入することにより固定する。

【0052】

【発明の効果】本発明は上述の構成をとることにより、ベッドに寝た状態で、楽な姿勢で囲碁や将棋の本(棋譜)を読むと同時に石や駒を並べて独習あるいは対局することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る遊戯具を示す斜視説明図。

【図2】本発明に係る遊戯具のスタンドの要部を示す斜視説明図。

【図3】本発明に係る遊戯具のスタンドに遊戯具本体を取り付けた状態の要部を示す断面側面図。

【図4】本発明に係る遊戯具の使用状態を示す斜視説明図。

【図5】本発明に係る遊戯具の他の実施例を示す斜視説明図。

【図6】本発明に係る遊戯具の遊戯具本体の一例を示す分解斜視説明図。

【図7】本発明に係る遊戯具の蓋体の一部断面説明図。

【図8】本発明に係る遊戯具の遊戯具本体の他の例を示す分解斜視説明図。

【図9】図8に示す碁石収納室の拡大分解斜視説明図。

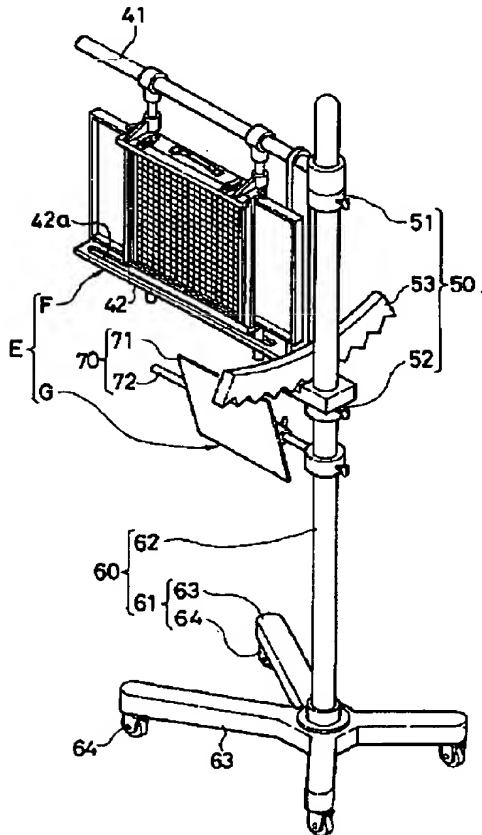
【図10】図9に示す遊戯具本体の携帯時を示す斜視説明図。

【図11】図10に示す遊戯具本体における碁石収納室のセット状態を示す斜視説明図。

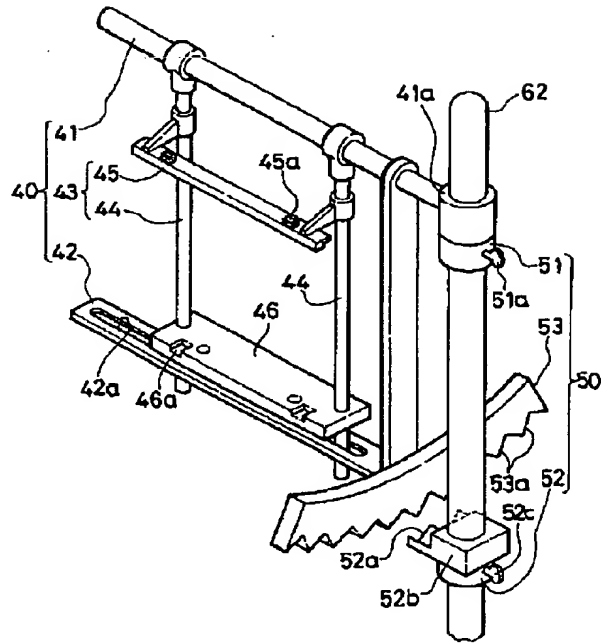
【符号の説明】

- 1 遊戯片
- 2 遊戯盤
- 10 筐体
- 20 蓋体
- 30 保存手段
- 40 保持手段
- 50 位置及び／又は角度変更手段
- E 遊戯具
- F 遊戯具本体
- 10 G スタンド

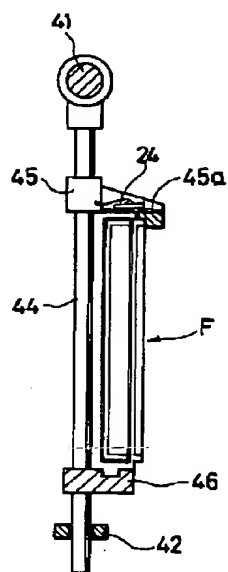
【図1】



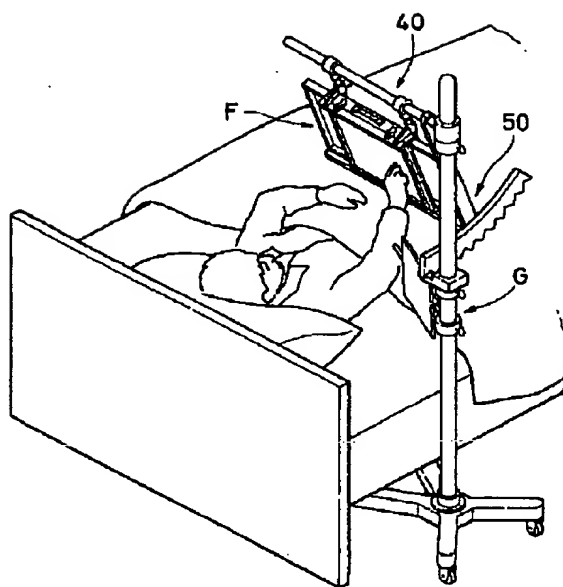
【図2】



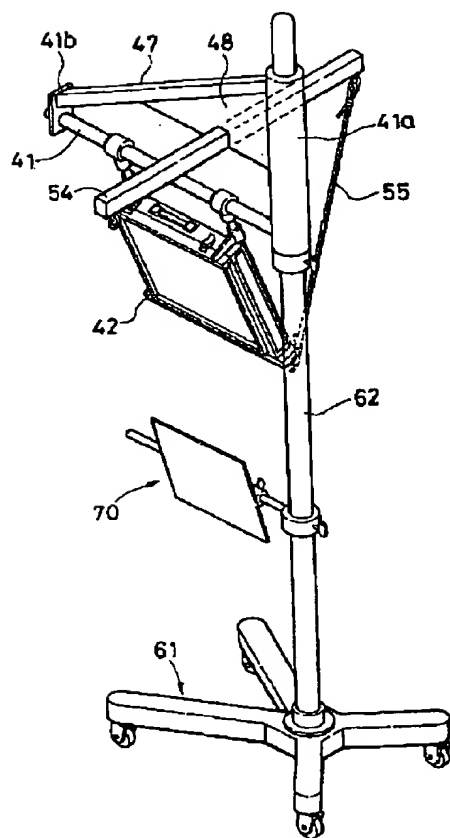
【図3】



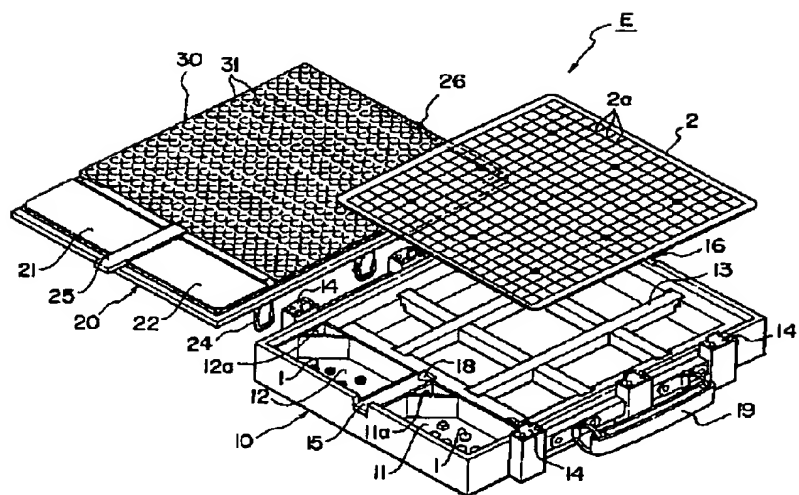
【図4】



【図5】

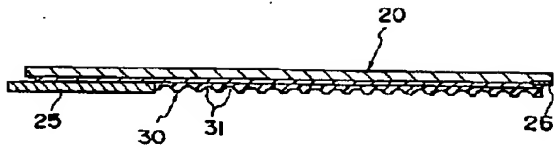


【図6】

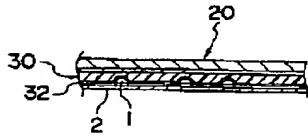


【図7】

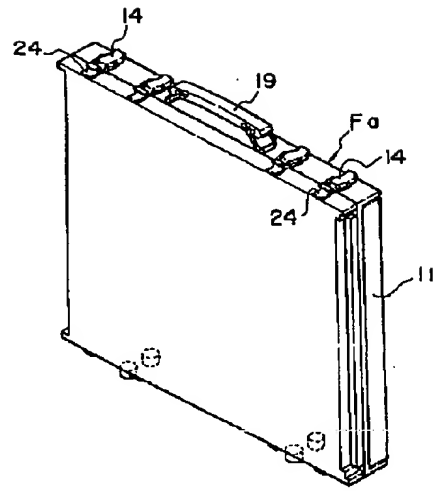
(a)



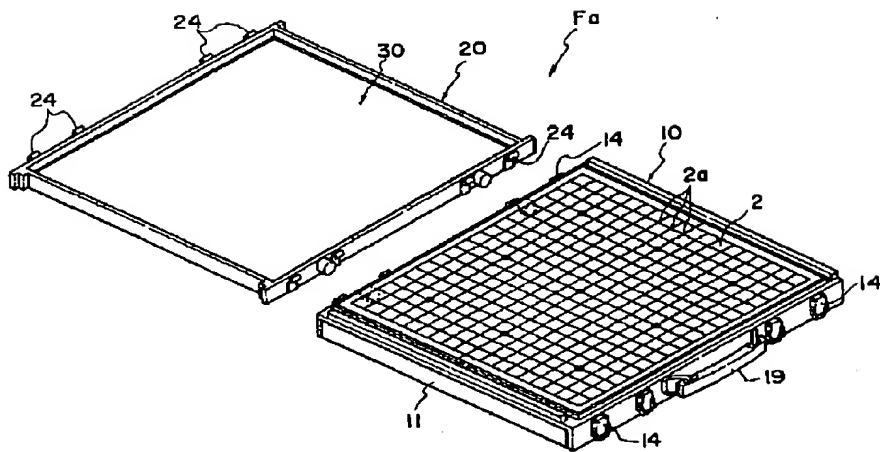
(b)



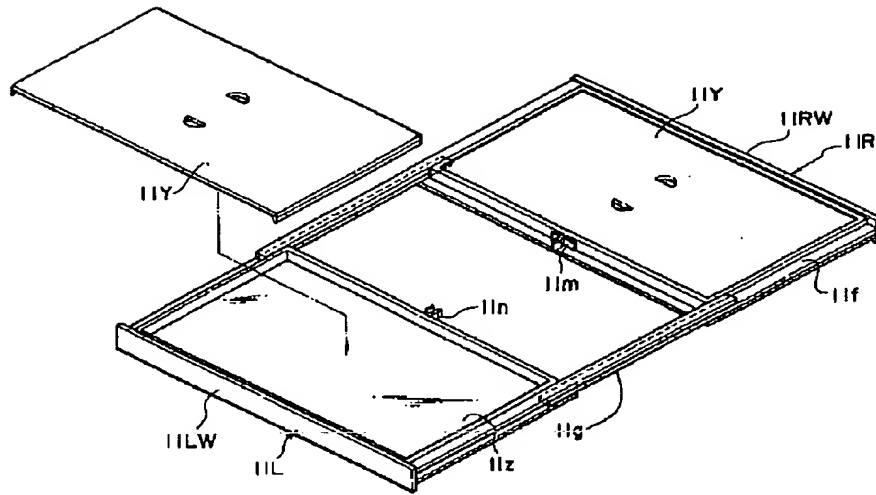
【図10】



【図8】

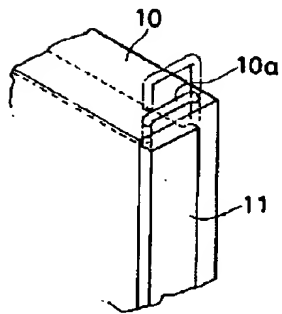


【図9】



【図11】

(a)



(b)

